

『自社技術の棚卸』がR&Dを変える

～ “イノベーション”のための
組織の壁を越えた技術の融合と人材の協働 ～

【開催要領】

- 日 時● 2014年12月5日(金) 13:00～17:00
- 会 場● 企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

講師

株式会社ケミストリーキューブ 代表取締役
イノベーションコンサルタント 平木肇 氏



92年筑波大学を卒業、シャープ(株)入社。エンジニアとして先端電子デバイスの研究開発・製品開発・生産技術開発に取り組む。通産省(当時)主幹の次世代研究プロジェクトに参画。99年(株)日本能率協会コンサルティング入社。14年間にわたり、技術経営(MOT)、イノベーションマネジメント、研究開発(R&D)マネジメントを主領域としたコンサルティングに従事。2014年(株)ケミストリーキューブ設立。“技術人材の知恵を、価値を創り出す力に変える”をコンセプトとして、ものづくり企業・技術系企業の技術力の強化と人材の開発を支援している。

【開催にあたって】

自社技術の戦略的な活用・蓄積ができていますか、これまでの研究開発・製品開発の中で生み出された技術は、現在の事業を支えるだけでなく、未来へ向けたイノベーションを生み出す貴重な資源であり、自社技術を効果的に活用・蓄積できるか否かは、ものづくり企業の成長を大きく左右します。しかし、多くのR&D現場では「技術が属人化してしまっている」「社内にはどんな技術があるのかよくわからない」「部門間で技術の共有化ができていない」「技術が開発しっぱなしになっている」など、技術マネジメントが機能していない現状に悩みを抱えています。『自社技術の棚卸』は、単に技術のリストをつくる、データベースをつくることではありません。自社技術を構造的に可視化するプロセスをとおり、現場の技術者、研究者のイノベーションマインドを高め、組織・分野の壁を越えた技術の共有と融合を促進する戦略的な活動です。本セミナーでは、株式会社ケミストリーキューブが開発した実践手法をもとに、戦略的な技術力強化へむけた自社技術の棚卸の効果的な進め方について、演習を交えながら学びます。

【申込書】一般社団法人 企業研究会 セミナー事務局宛 FAX:03-5215-0951

*申込書をFAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
*申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内にお送りする際に利用させていただきます。

■受講料:1名(税込・資料代含)

正会員 34,560円(本体価格 32,000円) 一般 37,800円(本体価格 35,000円)

141641-1010 『自社技術の棚卸』がR&D現場を変える			
ふりがな 会社名			
住 所			
TEL	FAX		
ふりがな ご氏名	所 属	職 職	
E-mail			

■参加要領: 申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。当会ホームページからもお申込み頂けます。
後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認ください。(【TOP】→【公開セミナー】→【よくあるご質問】)

※お申し込み後のキャンセルはお受けいたしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願い致します。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/川守田 E-mail:kawamorita@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 31M Tビル 2F

『自社技術の棚卸』がR&Dを変える

12/5
(金)

13:00

1. 変化するR&Dへの期待と技術力強化
 - (1) イノベーションの時代
 - ・イノベーションとグローバル ～経済を動かす2つの潮流～
 - ・分業化・専門化による知の断片化 ～イノベーションの壁～
 - (2) 変化するR&Dへの期待
 - ・イノベーションの創出と技術力の強化
 - ・R&D現場の現状と悩み
 - (3) 戦略的な技術力強化の重要性
 - ・技術力を高めるための3つの切り口
 - ・各社の取り組み事例
2. 「技術の棚卸」とは
 - (1) 技術をマネジメントすることの難しさ
 - ・技術は見えにくく、共有しにくい ～技術の属人化～
 - ・技術に対する見方は、立場によって異なる
 - (2) 技術の棚卸の狙い
 - ・技術の棚卸は、技術のリストをつくることではない
 - ・技術の棚卸の狙いは、R&D現場を変えること
 - ・技術の棚卸が実現する3つの見える化
 - ・イノベーション戦略の全体像を描き出す
 - ・組織の壁を越えた技術者、研究者の協働を促す
 - ・技術者、研究者のイノベーションマインドを高める
3. 「技術の棚卸」の進め方
 - (1) 技術の棚卸の実践プロセス
 - ・技術の5階層モデル ～技術の捉え方～
 - ・技術の棚卸の実践ステップ
 - (2) 技術を構造的に見える化する
 - ・機能を中心に技術を記述する
 - ・機能⇒用途+方式
 - (3) 顧客への提供価値を具体化する
 - ・価値は機能ではない
 - ・顧客の“うれしさ”を想像する
 - (4) イノベーション戦略の全体像を描く
 - ・価値と技術をつなぐ
 - ・イノベーションの着眼点を具体化する
4. グループ演習(3～5人のグループにて、仮想テーマを題材にした演習を行います)
 - (1) 演習1: 技術の見える化
 - ・実践手法: 技術の噛み砕き
 - (2) 演習2: 顧客価値の分析と想像
 - ・実践手法: バリュースタック
 - (3) 演習3: 全体像の俯瞰
 - ・実践手法: テクノロジー・サクセス・マップ

17:00

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで 2種類のセミナーをご案内しております。